

「ご挨拶」

大阪東南キリスト教会牧師

牧師 古川富也



「善き業を始められたお方」

浪速教会の初めからかかわって来たわたしにとって、現在の建物がここに「在る」ということは奇跡としか思えません。南海線の横にあったガレージを改装して、二階で礼拝をしていました。大勢の野宿者労働者の方々が狭いところにいっぱいになって、床が落ちるのではないかと心配したものでした。急な階段で建築基準から言えば認可されなかったかもしれませんが、教会堂が出来たという喜びで関係者一同が喜びにあふれて礼拝を続けました。一階では金鐘賢牧師夫人ら女性たちが、食事の準備におおわらわで働いていました。今思えば現在の広くてゆったりして設備の整った調理場ではなく、狭くて不自由な調理場で、女性たちは嬉々として奉仕の喜びを味わっていました。

どこの教会でも初めはお金も無く、小さい建物で始められました。そして数十年たったとき会員もふえ立派な教会堂が与えられているのです。ここに神さまの御手の働きを見ることができます。聖書に「あなたの方で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています」(フィリピ 1:6)とありますが、浪速教会「愛の家」はまさにこのみ言葉が実現したのです。このみ言葉を信じて働き献げた方々の祈りが実現したのです。

「愛の家」の理念は、人間の霊と体に救いをもたらすこと、すなわち全人的な救いにあります。食えることだけが目的ではなく、礼拝、交わりを通して「愛の家」につながることで、そして浪速教会の一員となり新しい生き方に「新生」することです。毎年洗礼者が与えられていることは教会に与えられた勤めをいまも生きて働いている証拠です。

わたしが風呂に入っていて常に思うことは、寒い時期の「愛の家」の働きのひとつである、野宿者労働者のみなさんに、風呂に入っていていただく時の寒さでしょう。強力な温風器で温かい風を送り込めば少しはしのげるかも知れません。このニュースを読んでもくださる皆さん、わたしたちは与えられたものをこの世を去るとき、持って行くことは出来ないのです。与えられているものを苦しんでいる隣人に喜ばれるものとして献げてください。浪速教会「愛の家」はこれらの善意でもっともっと大きな働きを続けることが出来るでしょう。

「ご挨拶」

在日大韓基督教会・西南地方会会長

牧師 朱文洪
(小倉教会牧師)

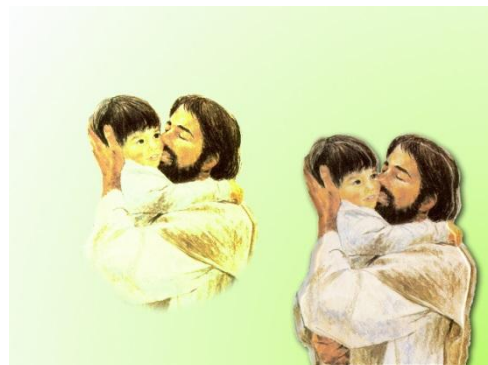


「雑用の家」

今年も早や年末年始が目前になりました。

「愛の家」に繋がる皆様にご挨拶申し上げます。北九州にある小倉教会の朱文洪と申します。今、原稿を書いている外の空は秋晴れで一点の曇りもありません。庭の木の葉は色づき始めました。気温が低いところは真っ赤に染まった紅葉が見られると思います。我が心は真っ青な空のように晴れ、紅葉のように燃えているのだろうか、自問自答して見ます。十数年前に釜ヶ崎の町を歩き、夜回りの研修を受け、社会の底辺にある「現場」が微かに見えるようになりました。「山谷」「水俣」「筑豊」「釜ヶ崎」「寿町」などからの政治、経済、宗教等々への問い掛けはこの時代の「正義の叫び」のように聞こえてきました。「お前たちは弱いものを踏みつけ/彼らから穀物の貢納を取り立てるゆえ—— /お前たちの咎がどれほど多いか/その罪がどれほど重いのか、私は知っている。お前たちは正しいものに敵対し、賄賂を取り/町の門で貧しい者の訴えを退けている/それゆえ、知恵あるものはこの時代に沈黙する。/まことに、これは悪い時代だ」アモス書(5/11-13)

研修を受ける前は現場と社会(世間)と私という図式で、第三者の立場から斜めに見ていたことに気付かされました。炊き出しする側ではなく、される側の列に立って居られるキリストとの出会いは目から鱗でした。先日、初めて「愛の家」を訪ねての感想ですが、町の人の出入りがあり、倉庫のように物が大雑把に積んでおり、会議室は大通りを走る車の騒音と振動で揺れていました。室内にも片隅に物が一杯ありました。家全体に温もりがあり、生活の匂いが人をホットさせてくれました。「釜ヶ崎の全国化」が進むこの時代に誰でも歓迎される居場所が皆様のお祈りと協力によって確実に根を下ろしていることに何か熱いものを受け取りました。



宣教チームの訪問

今年は4月から10月まで宣教チームが主の愛と福音を携えて来日しました。聖霊靈性教会（15名、5名、7名）、オソン教会（13名）、恵泉（ヘチョン）記念教会（17名）、シングル長老教会（33名）、大田主の愛教会（6名）が教会で宿泊しながら、朝も昼も夜も浪速教会や西成・大阪、また日本の魂のために熱く祈り・力の限り賛美し、御言葉を取り次いでくださいました。また、アメリカ南バプテスト教会の人々が研修見学に来られ、2人の青年が証をしてくださいました。聖霊様の豊かな働きによって導かれ共に神様を見上げる時、日頃の奉仕で疲れ途方に暮れそうだった私たち兄弟姉妹の飢え乾いていた心が潤されるのを感じました。そして、チームの皆さんは謙遜に、「愛の家」の働きを通して学ぶことが沢山あるとおっしゃってくださいました。このような慈愛に溢れた働きと祝福をくださっている私たちの主に栄光をお返しいたします。犠牲を払い、神様の導きに従順して「愛の家」を訪問し出会ってくださった皆様に心よりお礼申し上げます。これからも沢山の国内・海外の人々が「愛の家」を通して、主の愛と哀れみ・謙遜に触れることをお祈りいたします。

木曜伝道集会・日曜伝道集会

木曜・日曜の伝道集会には約70～90人前後の人々が集っています。木曜日は午前から礼拝堂に入ってキリスト教関係の映画を観たり、今年からはサンテレビで放送中の「ライフライン」のDVDを月に1回流して、日本全国の日本人クリスチャンを中心とした人々の証しを聞く機会も設けています。西成には全国各地からの人たちが集まっていますので、もしかしたら自分の故郷の人の証しを聞いて心が開かれるかもしれない。そうすればキリスト教が外国の宗教ではなく、身近に感じてもらえるかも知れない、という思いから始めました。木曜・金曜にはお湯でシャワーを浴びて身なりを整えることもできますし、散髪や髭剃りも奉仕しています。ガス・水道代はかかりますが、それ以上の効果はあり、臭いが減り、むしろピカピカに輝き男前になって前を向く事ができます。このささやかな交流の時を経て、少しずつ家族への和に入っていくことができると思います。

また、韓国のポップ歌手キム・スジン姉妹が6月にミニコンサートを開いてくださいました。日本語を一生懸命に準備された事がよく伝わってくるほどに、彼女の賛美もコメントもとても流暢な日本語で失業者の人たちの心を掴みました。9月には、京都教会女性会から林明基牧師と共に御言葉と賛美・また韓国舞踊を携えてご奉仕に来られ、私たちを励まして下さいました。男所帯の「愛の家」ですから、女性の歌声・笑い声が賑やかに響くと皆が喜びました。また韓国の歌手グループ Yeda Singers の皆さんも立ち寄って下さり、若い人たちの精練された歌声に私たちも驚き、感動を覚えました。また、プロのオペラ歌手・当重菡姉妹も特別な賛美を携えて毎月来てくださり、兄弟たちがとても励まされています。諸活動の多忙なスケジュールの合間を縫って、一人でも多くの魂が救われるようにとご奉仕くださり、また「愛の家」のスタッフたちを励ましてくださり、心よりお礼申し上げます。



金曜炊き出し会・衣類提供会

毎週金曜日は教会の近所にある西成公園で失業者、野宿者のための炊き出しを行っています。朝10時に教会に集まり、「この炊き出しが神様の御用のために用いられますように」と祈り、みなで心をこめておにぎりを握ります。（おにぎりにする御飯の準備には早朝から担当者が頑張って奉仕してくれています。）11時を過ぎる頃から味噌汁などをもって公園へ移動。その頃にはすでに食事のためにたくさんの失業者の方たちが列を作っています。「この食事をいただく人たちに神様の愛が伝わりますように」と祈って炊き出しを開始。お食事をされた方たちから「ありがとう、ごちそうさま」という声が聞こえてきて、お互いの安否を確認する交わりの時間となっています。季節ごとに、衣類や日用品の無料提供もおこなっており、皆様からいただいた支援物資はほんとうにたくさんの方たちの助けとなっています。いつもあたたかいご支援、本当に感謝です。



聖書勉強会・洗礼者教育

9月末から始まった聖書勉強会、入門コース（姜師母クラス）には、4人の兄弟が楽しく御言葉を食べて学んでいます。今年のテーマは「主の新しい家族の道」です。職を失ったチャンスを活かして聖書を勉強してみようと決意した兄弟や薬物依存症の苦しみから解放されるためにどうか教会にすがって参加している兄弟・・・人生は本当に色々ですが、教える側も教わる側もからし種程の信仰をも大きな実りへと変えてくださる神さまの元に集まり、同じ恵み分かち合えることに改めて感謝をしている今年の聖書勉強会です。

信徒コース（金牧師クラス）には、11人が参加しています。今回は「栗栖クリスチャンの祈禱生活」というテーマで聖書勉強会を行っています。全員が欠席する事なく熱心に受講し、み言葉を学んでいます。

教会創立19周年記念礼拝

創立記念主日には、プロのピアニスト・小堀英郎執事（京都教会）を招いて特別賛美を捧げました。小堀さんは、音楽大学在学中に手首の複雑骨折をし、ピアニストとしての将来を危ぶまれましたが、神様が御言葉を通して跡形もなく癒してくださり、それからは自分のためではなく、神様のために弾くピアノとなったと証ししてくださいました。その音色は聴く者を魅了し、また今も生きて私たちと共におられる神さまを仰ぎ見るように導いてくれる音色でした。19年間、嵐の時も嵐の時も神さまが先頭に立って導き、養ってくださった、守って下さった事を思い出しながら感謝する記念主日となりました。お忙しい中でも、快く引き受けてくださり、また兄弟たちと交わりもよくして下さいました小堀さんに心よりお礼申し上げます。



創立19周年記念礼拝



2016年の全信徒修養会

久しぶりに氷上祈禱院で2泊3日の修養会をしました。今年のテーマは「地の果てまで主の証人となろう！」でした。修養会の前に強い聖霊様の導きを受けた私たちは、祈禱院で思いっきり声を張り上げて賛美しながら踊り、祈ることができました。数年前に体調を崩し、心臓の病気を抱えて車椅子生活を送っている「愛の家」の古株“竹ちゃん”こと竹本直行さんも数年ぶりに参加しました。本当に嬉しかったです。バリアフリーの設備がなくても、神の家族が助け合えば、臨機応変に色々なアイデアが出てくる。介護ヘルパーのプロも1人参加していたので、皆で力を合わせて共に重荷を背負い、喜び、また、御言葉に専念する3日間となりました。快く受け入れてくださった氷上祈禱院の方々に心より御礼申し上げます。

「教会学校」大好きな子ども達！

教会に集う子どもたちがぐんぐん成長したなあ、というのが今年の感想です。子どもたちが毎週の礼拝で順番にお祈りを担当するようになりました。覚えただけのひらがなを一生懸命読んでいたのに、最近では大きな声で、しっかりお祈りできるようになりました。春の遠足では元浜緑地に行きザリガニ釣りをしたり、大きな滑り台をみんなで滑り降りたり、楽しく過ごしてきました。夏のキャンプは在日大韓京都南部教会でヨナ物語をテーマにブルーンドームをつくったり、そうめん流しをしたりと子どもたちの笑顔が溢れる夏の思い出となりました。このクリスマスにはドレミパイプを使っての賛美歌の演奏を計画しています。楽器演奏が子どもたちの興味とあっていただのか、自分たちで練習をするようになり、子どもたちのやる気を感じています。イエス様のお誕生を子ども達と心からお祝いできることを楽しみにしています。 ③



奉仕者の声

『 重い口を開いて… 』

浜村伸二 聖徒

私は福井県で生まれました。兄弟は5人兄弟で男ばかり、自分は4番目でした。18歳で関西へ出てきました。それから料理の人生が始まりました。理由はただ単にメシを食べていくためでした。兄貴が和食の料理人をしていましたので紹介してもらい、見習いから始めました。兄貴が「和」なら自分は「洋」だという事で、洋食店で腕を磨きました。しかし、その兄貴も20歳で亡くなってしまいました。洋食の中でも特にフランス料理が専門でした。師匠は10歳くらい年上の日本人で、自分がチーフになる頃には北新地でステーキ屋をしていました。数年間は互いの店を行ったり来たりと交流がありましたが、今はもうどこでどうしているのか、分かりません。

どれくらい見習いをしたのか、あまり覚えていませんが、10年過ぎた頃にはチーフ(調理長)になっていました。そこはサントリー系列の高級レストランで、社員をととても大切にしてくれるところでした。親父が亡くなった時、社長自らが香典を送ってきてくれて、自分も周りも皆びっくりしたくらいでした。それまでも店を何店舗か変わりましたが、そこが一番長く勤め、約20年間働きました。高級レストランだけに、カレーや丼物などは浪速教会にくるまでは一切作った事はなかったです。今は勤だけを頼りに(浪速教会の)集会の食事を作っています。

阪神大震災の日は、ちょうど転勤の日でした。大阪の店舗から三宮の店舗へ移動する初日でした。地震で交通が混乱している中でなんとか、三宮までたどり着き、めちゃくちゃに散乱していた店

を立て直しました。でも、半年後には大阪のヒルトンホテルへ移動しました。その後、最後には初めてチーフとして勤めた店に戻り、57歳まで頑張って働き、お金も貯めました。しかし、貯めた金も大阪や神戸でいわゆる「飲む・打つ・買う」で全部使ってしまいました。そのお金も1年も持たず、あっという間でした。

難波で1年くらい「アオカン(野宿)」をして、その後シェルターでの宿泊を始めました。それからもうだいたい13年が過ぎました。ちょうどシェルターで寝泊まりを始めた頃に、誰かから聞いて浪速教会で集会があると知り、暇つぶしとご飯が食べれるという事で通うようになり、また料理の手伝いもしました。一時は離れたこともありますが、今は洗礼を受けて、礼拝堂の一番後ろで座りながらも少しでも

礼拝の恵みに預らせてもらっています。

実は今年で70歳になります。70歳で何十人、時には約百人の食事を作るのは本当にしんどいです。でも、食事を作る必要性も理解できるし、誰もができるわけでもないの、他に代わりが見つかるまではせざるを得ません。昔は日雇いの仕事で引越しや芝居の設営の仕事等にも行き、食いつないでいましたが、体がついていかず、今はもうそれも辞めてしまいました。とっくの昔にパチンコや競馬は止めていたし、今は少しのお金で食いつないでいます。また、体が少しでもいいことを聞か間は、生活保護も受けずに耐えたいと思います。シェルターだと、無理にでも朝5時には起きてそこを出ないといけない、それがあるから朝を始めることができるからです。また、そこに知り合いも一緒にいるからです。

西成は私が来た頃とは随分と変わり、人が少なくなってきました。昔は日雇いの仕事に若い人が多かったのに、今では仕事に行かなくなりました。西成も私自身もこれからどうなっていくのか、わかりません。賛美にもあります。「明日はどんな日か、私は知らぬ〜。」だからこそ、神さまにお任せして、できる限り浪速教会で料理は続けていこうと思います。そして、今ではないですが、最後には生き残っている兄弟・母親も生きていれば連絡を入れたいです。



奉仕者の声

『愛溢れる主の家族』

当重 茜

(藤井寺キリスト教会)



「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

(使徒 2:46～47)

私の人生にとって忘れもしない衝撃的な出会いの日…こういっても過言でないと思います。浪速教会を初めて訪れたのは2015年12月10日のことでした。降誕節にちなんだ賛美を3曲用意して、芦原橋の駅に10時待ち合わせということでいささか緊張気味に家を出たことを思い出します。

駅に到着すると待ってましたとばかりに愛する兄弟2名、笑顔で迎えてくださいました。そして教会に着くと、「もろびとこぞりて」さながら教会に駆けつけ、礼拝開始までまだまだ時間があるのですが、シャワーの順番を笑顔で待っておられる人々の姿。礼拝堂にはすでにシャワーを終えた人たちが、CGNテレビの放送に見入っています。「なるほど…礼拝前に身を清めて、心も備えて、神様の御言葉を待っておられるのだなあ…」クリスチャンになってこの方味わったことのない感動を覚えました。「初代教会って、もしかしたらこんな感じだったのかもしれない…」そんなことを思わされました。しかも、さらに驚いたことに、この「愛の家」は実にユニークな優れた賜物を神様からいただいている方々の宝庫なのでした。ドラムで賛美奉仕される方、音響で主の働きに携わる方、賛美をリードされる方、祈りと賛美の賜物豊かな方、お料理の奉仕にあたる方…どの方も、他所の教会ではなかなかお目にかかることのできない力量を具えておられる…みな一同に持てる物を喜んでいのちいっぱいにささげておられる真の礼拝者であり献身者である…そんな姿を目の当たりにしてただただ驚き主をほめ讃えるばかりでした。どの方も皆、おひとりおひとりが、救われた喜びと、素晴らしい神様との出会いや交わりを経験されて、ひたすら全身全霊でそれをお証しされています。

そんな「愛の家」の家族のお姿に感動し、私も同

じ神様を信仰する者としてこの愛の輪に加えていただきたい！と、以来私の都合のつく木曜日にお邪魔しています。

木曜日の失業者を招いての礼拝は11:30からです。普段、野外での生活で、時には劣悪な状況に苛まれ危険や病と隣り合わせに暮らしておられる方々、その表情は様々です。しかし、「ここに来ると大丈夫」とでもいうのか、ある種の共通した安堵感がそこに醸し出されます。「わが悩み知り給う、そは主イエスのみ」…賛美リーダーが選んだ曲を聴きつつ歌いつつ、心から「アーメン」と叫んだことがありました。私には彼らの苦しみはわからない、主なる神様にしかわからない、でも彼らの心に寄り添いたい…そんな風に願いつつ賛美させていただいています。そんな私が献げる賛美は喜んでいただけているだろうか？どんな選曲をしたら彼らが一番喜ばれるのだろうか…という考えもよぎったりするのですが、伺う数日前の祈りの中で私の心が導かれるままにご用意させていただきます。

4月に伺った時は懐かしい唱歌も共に歌いました。併せてクラシックの名曲に主をほめる歌詞をつけた歌をもって賛美しましたが、食事を済まされた帰り際の「瀧廉太郎、よかったよ！今度プッチーニもお願いね！」そんなお声掛けにも励まされたものです。

食事といえば、礼拝終了間もなくの配膳！これも素晴らしい手際の良さです。ご飯の盛り付けなどお手伝いさせていただくも、流れ作業で実に無駄なく盛り付けられ、手順よく集められた人全員の手許に行き渡る速さ、また人によって盛り付けも大盛りだつたり普通だつたり熟知された的確さにも驚かされます。

「愛の家」の家族は、食事を提供し、またそれぞれの場所へと向かう人たちに『いつてらっしゃい』と見送り、全ての食器を洗い、片付けて、そこでようやく自分たちの食事の時間です。心から自発的に真心こめてのご奉仕、この『仕える者』の姿勢は神様に喜ばれ、大いに祝されることと信じます。

金鐘賢先生ご夫妻がこの地に来られ、蒔かれた種がこのように実を結び、また更に地境が拓かれていることを実感します。主の愛に立ち返ることのできる故郷「愛の家」を訪問する日をまた心待ちにしつつ…神様の与えてくださった出会いに感謝です。



【特集 「愛の家」の恩人② — 金鐘賢牧師

久保 賢太郎 牧師 (グット・サマリタン・チャーチ協力牧師)

私が久保賢太郎先生（現在 88 歳）と初めて出会ったのは 2002 年「愛の家」運営委員会を発足する時でした。豊中第一復興教会の朴昌煥先生が久保先生を運営委員に推薦して下さい、久保先生は快く引き受けて下さり、第 1 回「愛の家」運営委員会に参加してくださいました。私とも浪速教会「愛の家」とも全然縁がなかったのですが、先生は私達の働きを理解して運営委員になられ、積極的に協力して下さいました。今は私と先生は主による親子関係と言える位、私と妻は先生御夫妻に愛されております。

久保先生は、2003 年から 2007 年体調を崩されるまでの 4 年間、毎月 1 回説教の奉仕を担われました。毎月来られ西成の多くの兄弟姉妹達に命の御言葉を力強く伝えて下



さいました。先生は毎月第 3 週の木曜日毎に、時には友人を連れて来られたり車に野菜、衣類、果物などをもって来られたりして熱心に奉仕をされました。

グット・サマリタン・チャーチで先生が提案して始まった衣類や生活用品を収集して「愛の家」に送って下さる活動は、今も続いております。現在、グット・サマリタン・チャーチは年間一番支援物資を多く支援して下さいる支援者となりました。

私達浪速教会「愛の家」は、2004 年創立 10 周年記念事業として教会堂と「愛の家」を建築する事を決めて、募金活動をはじめ 2005 年からは躯体的計画を立てて 2007 年完工しました。久保先生は建築のため先頭に立って助けてくださいました。「私が死ぬ前に浪速教会・愛の家センターが建てられるのを見るのが私の夢である」と言われました。今も忘れられないのは先生と一緒に神戸の杣さんの処に連れていって下さり、杣さんからアドバイスを受けたことです。

久保先生は農業に関心があり野菜や果物を毎年栽培して私が呼ばれて行ったら車にいっぱい乗せて下さいました。先生が私達「愛の家」の活動に愛情を持っておられる理由の一つは西成において「愛の家」は「伝道の実践と支援」をバランス良く行なうことであると話されました。私達は先生が説教の中で「浪速教会」は、「中国宣教のため働くビジョンを持ちなさい。」と語られたことを忘れないで今も覚えております。



「愛の家」会計決算書(2016.4～2016.10)

収入	16予算	16. 4-10	備考
定期後援会	800,000	531, 471	66,4
一般後援会	1,900,000	905, 657	47,6
クリスマス献金	1,000,000	106, 000	10,6
食事献金	1,500,000	540, 000	36
総会支援金	500,000	270, 000	54
御米献金	360,000	65, 884	18,3
小計	6,060,000	2, 419, 012	25
繰越金	1,375,468	1, 039, 640	
合計	7,435,468	3, 458, 652	38,8

支出	16予算	16. 4-10	備考
事務・備品・印刷費	330,000	123, 004	37,2
交通費	100,000	2 0 0	0,2
車両維持費	300,000	0	0
奉仕者支援金	1,500,000	330, 000	22
研修費	150,000	0	0
御米代	1,000,000	130, 640	13
副食費	2,900,000	1, 863, 448	64,2
会議費	30,000	0	0
発送費	100,000	29, 572	29,57
愛の家建築積立金	800,000		0
救済費	50,000	10, 947	21,8
修理施設費・予備費	175,468	0	0
小計	7,435,468	2, 517, 811	26,5
繰越金		940, 841	
合計	7,435,468	3, 458, 652	21,4



韓国の姉妹が「『愛の家』にピッタシの賛美です」と木曜伝道集会の特別賛美をして下さった賛美の歌詞を紹介します。

♪愛、その狭い道♪

愛、その狭い道、誰がその道行くか。

謙遜、その狭い道、誰がその道

誰が 主の心を知って 姉妹の涙を拭ってあげ

誰が兄弟の過ちを愛で覆ってあげ

誰が主の心を知って 絶望に陥っている人を探し

なぐさめの手を伸ばして 愛で包むか

(1ペトロの手紙4:8)

誰が主の栄光のため 自ら低くなり

この世の誉れも 捨てることができるか

誰が 主の栄光のため 自分の自由をおろして

十字架の愛の中で 喜びながら仕えるのか・・・



路上生活者支援のための クリスマス献金のお願い



御子イエスのお誕生を待ち望む季節となりました。支援者の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より私ども、浪速教会「愛の家」の活動へのご理解、ご協力を賜り、まことに感謝申し上げます。

この一年も主の導きにより、浪速教会「愛の家」は皆様からの多くの愛を受け、またその愛を分かち合う活動ができましたことを心より感謝申し上げます。今年度は、浪速教会「愛の家」に新たな働き人が与えられ、若い力に励まされ、奉仕の業にもいっそう励むことができたように思います。また韓国をはじめとする外国からの宣教チームや日本の志のある方々のご奉仕・ご支援を受け、また失業者同士の心からの献げ物により、失業者の方たちはもちろん、教会に集う兄弟姉妹、「愛の家」に関わる全ての人々が「5つのパンと2匹の魚」の出来事のように心もお腹も神様の愛で満たされる一年を過ごすことができました。

また今年も、越冬対策夜回りを11月から始めております。だんだんと風の冷たさが身にしみてくるこの季節、路上生活を余儀なくされている西成の仲間を思うと胸が痛くなります。今年も皆が無事に冬を乗り越えていくことができますように、お祈りください。また一人でも多くの西成の仲間が、主に出会い、主に新たにされて、残りの人生を主と共に歩む決心へと導かれますよう、お祈りくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

現在、私ども「愛の家」は炊き出しを一週間に3回行っております。金曜炊き出しには毎回約150人～250人、日曜礼拝や木曜集会にも常時100人近くの路上生活者が温かい食事を求めて並びます。炊き出しの実際の経費として、毎週57,000円を支出しております。

(お米50kg・12,000円、副食費45,000円、合計57,000円)

力なく、小さな赤ちゃんとして私たちのもとへとおいでくださった主イエス様のお誕生を喜ぶこのとき。路上生活を強いられる方々に、御子イエスのお誕生の喜びと愛と希望を届けることができますように、クリスマス献金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会&日曜礼拝と食事提供、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、越冬夜間パトロール、生活用品収集分配

2016年度クリスマス献金目標額：100万円

◇ 定期、一般後援者募集

一般後援：1000円以上、定期後援：毎月1000円以上

◇ 衣類、生活用品、毛布、寝袋、カイロ、食材、お米を送って下さい。

郵便振替：00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2016年12月



在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」

共同委員長 森田 幸男 牧師

共同委員長 李 清 一 牧師

総 務 金 鐘 賢 牧師

献金者お名前(敬称略・順不同)
(2016年4月～2016年11月20日)

✦ **定期後援金**

グッド・サマリタン・チャーチ(尼崎集会・洲本チャペル)、大阪東南教会、横浜長老教会、在日大韓総会、長野教会、豊中第一復興教会、朴栄子、金鐘賢、金英姫、金景淑、古川富也、吉村俊郎、新国久男、大木正典、石井洋二、山住達樹、川島美恵子、河内常男、匿名

✦ **一般後援金**

グッド・サマリタン・チャーチ(洲本チャペル)・阿武山福音自由教会、アメリカ南バプテスト教会、ミシシッピ・ロングビューポイント教会、聖霊霊性教会、シングル長老教会、オソン教会、恵泉記念教会、ソウル大教会、大田主の愛教会、全国教会女性連合会、京都教会女性会、川崎教会トラチ会、ミオ介護サービス、イカイノ保育園、金英姫、田部郁隆、久野雅未、寺岡孝、澄川満喜子、安田修、伊藤道子、高山加古六、野津道代、金鐘賢、許清子、中島禎二、当重茜、長谷川洋一、古海勝位、石井利和、匿名

✦ **クリスマス献金**

グッド・サマリタン・チャーチ(洲本チャペル)、島村教子、河内常男

✦ **イースター献金**

南浦和教会、浪速教会、オソン教会、角野

✦ **建築献金**

関西地方会、グッド・サマリタン・チャーチ(洲本チャペル)、聖霊霊性教会、シングル長老教会、オソン教会、恵泉記念教会、ソウル大教会、大田主の愛教会、古川富也、山本 覚、村本瑛子、金鐘賢・姜貞淑、申容燮・清水のぞみ、森元孝・金英姫、大木正典、平野竜一、金正煥、金斗賢・金善栄、久保賢太郎、匿名

✦ **お米、お米献金**

グッド・サマリタン・チャーチ(洲本チャペル)、宇都宮松原教会、神戸布引教会壮年会、大阪北教会、小林勝、田部郁彦、山崎雅代、鄭淑子、元浦末浩、平野真希、匿名

✦ **食材**

大阪北教会、関西フードバンク大阪、YMCA アジア青少年センター、沢知恵、崔愛蘭、伊藤房子、丘圭希、片本武三、匿名

✦ **衣類、生活用品**

グッド・サマリタン・チャーチ、オアシスチャーチ、久保賢太郎、金英姫、平田健二、池原朝美、川島美恵子、中村洋子、匿名

✦ **花・その他の物品**

萩原美緒、金英姫

「愛の家」の人々

「愛の家」の家族の出来事や、どのように励ましや癒しを受け毎日を懸命に生きているのかを分かち合いたいと思います。

この半年間は2人の方がご高齢にも関わらず勇ましく病と闘い現実を受け入れています。現実とは回復するどころか悪化していますが、彼らには不思議といつても平安と笑顔が溢れています。教会の伝道チームが毎週火・土と入院先や家を訪問し、心の内を聞いて受け止めています。また心を合わせて祈る事を通して主の平安が包んでくださっています。その内の1人平島さんは以前にも脳梗塞や心筋梗塞で数回倒れています。倒れるその直前には必ず教会の誰かが彼と共にいます。そして救急搬送を受けて一命を留めています。神様が共にいて守ってくださっていることを知り感謝が絶えず、失語症になっても手を合わせて心で主に祈る平島さんは、段々と優しくなり、笑顔が大きくなってきています。79歳の誕生日の直前に退院して、教会で皆に囲まれて無事にお祝いをする事ができました。ハレルヤ!

また、薬物の依存で身も心もとても傷付き苦しんでいる兄弟が神様により「愛の家」へ導かれました。彼の苛立ち・苦しみ・痛み・悲しみは当人以外には到底理解ができません。しかし神様ご自身がボロボロの彼をありのまま愛し祝福し癒す、と思われたからこそ私たちの家族の一人として贈られたのだと確信しています。全てに感謝しながら、共に愛し合って歩んでまいります。

「愛は、全てを完成させる絆です(コロサイ3:14)」



発行責任者 金鐘賢・森優紀慶

発行所 「愛の家」広報部

〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3

浪速教会「愛の家」内

TEL 06-6561-4712(教会)

FAX 06-6561-4709(教会)

E-mail: ainoie@msn.com

ホームページ: www.ainoie.org

郵便振替口座: 在日大韓基督教会浪速教会